

メンターの声

◎メンター経験者Oさん

私がこのキャンプに参加するのは3回目だが、今までの中でも特に記憶に残る、やりがいのある9日間だった。その中でキャンパーとのコミュニケーションのあり方について難しさも感じた。特にネット依存経験者メンターとそうでないメンターとの間で目指す姿に違いがあり、キャンパーへの接し方や寄り添い方に困惑した場面もあった。

経験者メンターはキャンパーと近い関係で接し、大きな心の支えになっていた。そのことをキャンパーも口々に話す反面、経験者でない私たちはいったい何の役に立てているのだろう、とモヤモヤと考えてしまうことも多かった。

今後のキャンプで、ネット依存を経験したメンターは増えていくと思うし、その存在は非常に重要なものである。ネット依存を経験したメンターにしかできないこと、逆にそうでないメンターにしかできないこともあると考える。

メンター同士の交流の機会や話し合い時間の確保などにより、メンター間の意思疎通を図り、一人ひとりが自身の役割をしっかりと果たしていくことで、今後のよりよいキャンプ作り、そして持続性のある事業となるように努めていきたい。

◎メンター初心者Wさん

今回のキャンプで自分のメンターとしての立ち位置に悩みました。メンターの中にはゲーム依存経験者が多くいたことや、色々メンターが深いところまで聞いていたりする中で、もっと「楽しいキャンプ」を作る補助に徹した方がいいと感じ、キャンパーとの関わりについても考えました。そのほかにも、他のメンターの悩みを聞いて、自分も色々考えたりしました。

しかし、何よりキャンパーとメンターと、このキャンプに関わっていた様々な方々と一緒に、今回のSDiCを行えたことがとても楽しかったです。最初は緊張なのか、キャンプに参加したくなかったのか、表情がこわばる以前に、表情が無いくらいだったキャンパーたちが、段々と笑顔が増えて、いい意味で素が出て、遠慮が無くなったりして、8泊9日という日数の中で、彼らの表情が変化していくことが本当にうれしかったです。

普通の大学生活では、他人の一挙一動に、ここまで目を向けることなんてありませんし、メンターをやっているときほど、相手に対して「ありがとう」と声をかけたりはしませんでした。キャンパーにとって非日常であるこのキャンプは、私にとっても同じでした。このキャンプで学んだこと、考えたことは、これからも自分自身の中に残っていくと思います。

今回は、メンターとして参加することが出来て、ほんとによかったです。

◎ネット依存回復者メンターSさん

ネット・ゲーム依存症からの回復は難しいけれど、人との繋がりが何よりも大切であると改めて実感したキャンプでした。キャンパーの表情がこんなに短期間で、大きく変わっていったことに、大きな驚きと喜びを感じました。自身の依存症経験を、今までの人生で最も活かすことが出来たと感じた機会でした。

また、依存を知らなかったメンターとの会話を通して、いかにネット・ゲーム依存症というものが理解されていない、理解が難しいことであるというのを実感することもでき、「そうか、皆分からないんだよな」と、自分から発信をしなければならいんだなと、初めて気づきました。一言では言い表せない、楽しさ、発見、難しさに溢れたキャンプでした。